



2025年も「たゆたえども沈まず」ですかな…(^_~;)

新潟市民病院

古 川 浩 一

さして強くも速くもなく、上り坂も向かい風も嫌いなのだが、凝りもせず相変わらずロードバイクを漕いでいる。

2023年の当院外科山崎先生とエントリーしたツールド妻有120（距離122km/獲得標高2,496m）完走に気をよくして、2024年も5月12日恒例の諏訪・両津の先生たちとの佐渡ロングライド210（210km/1,943m）を皮切りに、郡山ツールド猪苗代（山崎先生と参加、100km/1,317m）、ジローデ荘内（山崎先生と参加、140km/1,228m）、佐渡オータムライド130（山崎・窪田先生らと参加、130km/1,175m）、金山ヒルクライム（14.5km/942mでしたが落車で途中棄権、山崎先生は完走）、10月27日グランフォンド軽井沢 浅間山山麓一周

（山崎先生と参加、98.7km/2,319m）を転戦しシーズンを終えた。完走したイベントの獲得標高は合計7,982mであった。

早朝も小阿賀野川往復20km ペダル回してから愛犬散歩が出勤前の日課となり、大会のない休みにも細野先生、阿部先生とSL 磐越物語と並走し、院内のチャリダーに加え立川園のご主人、元アルピチアールのバリバリアスリート、娘の中学校時代の同級生のお父さんなど友人知人と練習会やプチ遠征もこなしてきた。とにかく天気に恵まれ小佐渡一周、猪苗代湖一周、東赤谷連続洞門、母成グリーンライン展望台、魚沼展望台、内之倉ダム、阿賀高原ゴルフ場、旦飯野神社を走り廻った。弥彦山は5回のぼり今期の累積獲得標高は優に



写真1 佐渡ロングライド210有名なZ坂を背景に、細野先生、阿部先生、山崎先生と病院の自転車仲間で手文字の「Z」が逆の筆者。

10,000m を超え20,000m に迫るところまで積みあがった。このロードバイク界隈はとんでもないレジェンドだらけなのでお恥ずかしい限りだが自分として上出来な一年であった。

世界最高峰のロードレースであるツールドフランスはオリンピックも終わり、2025年は例年のように最終ステージをシャンゼリゼ通りで華やかにフィナーレを迎える。丘陵の連なる平原を駆け抜け、アルプスの山岳決戦、数々のクラッシュやゴール前の競り合いを経て、7月27日（日）マント＝ラ＝ヴィルからの第21ステージ（最終ステージ）120キロを走りぬけサイクリストたちはパリにゴールする。

そのパリ市の市標は16世紀から *Fluctuat nec mergitur* のラテン語*となっている。“どんな時でも、何度でも、いかなる波風に翻弄され激流に身を委ねながらも決して沈まず、やがて立ち上がり進んでゆく”という意味が込められている。デジャヴのように繰り返すつづら折りの坂道をヘロヘロになりこぎ続けているとこの言葉が湧き上がってくる。それでもなんとか峠をドロドロになりながら登りきると、すっかりクールダウンを終えた山崎先生と窪田先生が「そんなに待っていませんよ～」と爽やかに出迎えてくれる。あ～やはり、自分の心持はこれからも「たゆたえども沈まず」で変わらないのだろう。

*注：詳しくはわかりませんが、ラテン語の“U”はパリの紋章では“V”の表記となっています。



写真2 佐渡オータムライド130ソフトクリームポイントで大野亀を背景に撮影。

右からバドミントン歴45年現役プレーヤーの山崎先生、体力お化け元甲子園球児の窪田先生、そしてヴェブレン有閑階級「誇示的余暇」でもなく『パンセ』や『徒然草』の諦観や厭世の箴言でもなく、肅々と「国策に売りなし」と働き方改革を目下実践中の筆者。